

現在、日本の景気は後退し、回復の兆しささえ見えていない状況で、暗いニュースばかりが目立つ状況にあります。そこで、アメリカの好景気がよくとりだたされ、アメリカ型資本主義が注目されていますが、実際はそれがアメリカ国民の生活に結びついていない現実があるようです。

4月28日の朝日新聞に載っていた記事ではアメリカ型経済システムの弊害について書かれていました。所得格差の拡大によって貧富の格差が大きくなったようです。以下はその内容からの引用です。

「アメリカで生み出された所得の内、労働者への還元分を示す労働分配率はすでに7年を越す今回の景気拡大局面でも下落してきた。97年のアメリカ大統領経済報告もかつてずっといてきな雇用が約束されていた中産階級にリストラなどのしわ寄せが及び、所得の不平等が拡大し、裕福な人々がさらに豊かになる半面、貧しい人はますます貧しくなる傾向が続いたと認めている。...（省略）アメリカで社会不安が広がらないのは、株価の上昇に伴う金融資産の拡大が収入の目減りをおる程度補っているからだろうとされている。」

このように、市場経済がグローバル化する中また、アメリカの好景気などによって規制の少ないアメリカ型資本主義が世界で主流になろうとしているが、所得格差を生むという弊害がある以上そのままアメリカ型経済システムをまねすることは良くないと考えます。そのためには、日本の平等性といった物を少しは残して行くべきではないかと考えます。しかし、それには経済活動を行う上で、積極性を阻害するといったことも出てきます。（例年功序列賃金制、終身雇用制度）そこで二つのシステムの良いところを生かしたシステムが作れるならベストだと考えますが、実際は難しいと思います。これからの競争社会においてある程度の格差が出ることは資本主義社会では仕方のないことなのではないでしょうか。このことについて私自身はどちらが良いと結論を出せませんでした。これを読んだ方であういった意見があるという方がいましたら、是非メール等で聞かせて下さい。

アドレス

aaa87520@pop11.odn.ne.jp

e080294@isc.senshu-u.ac.jp